

**第2期那須塩原市子ども・子育て未来プラン（案）に対する
パブリックコメント（市民意見募集）の結果について**

1 実施状況

(1) 募集期間 令和元（2019）年 11 月 27 日（水）から令和元（2019）年 12 月 20 日（金）まで

(2) 意見提出者数 2人

(3) 意見件数 16件

(4) 提出方法

提出方法	直接書面	郵送	ファックス	電子メール	計
人数	2人	0人	0人	0人	2人

2 提出された意見要旨とそれに対する市の考え方

○第2期那須塩原市子ども・子育て；未来プラン（案）に対する意見募集を行った結果、2名の方から16件の御意見をいただきました。提出された御意見に対する市の考えは、次のとおりです。

○意見・提言（要旨）については、御意見の主訴を踏まえた形で文章を変更した箇所もあります。また、同様の趣旨の御意見をまとめて記載しております。

番号	意見要旨	市の考え方
1	放課後児童クラブは充実してきたが、土日祝や長期休み時に利用できる児童館のような子どもの居場所が必要ではないか。また土曜日や日曜日、祝日などに子どもだけでも参加できる催しを公民館等で行い、地域の方々にも協力してもらって芸術体験や物作りをする等の取組を行ってはどうか。	現在、土曜日や長期の休業日は放課後児童クラブの開設を行っておりますが、今後予想される不足定員については順次整備等の施策を実施予定です。 また、日曜日や祝日については、より多くの地域の方々の協力を得るなど、今後施策を検討してまいります。
2	保育士不足について、復帰する保育士が少ないのは労働内容と対価が見合わないことが保育士に認知されてきているためであり、更なる待遇改善が必要ではないか。	私立園での保育士の処遇改善については、国の施設型給付費に処遇改善加算を付けるなど改善が行われており、今後も私立園の運営者と協働で処遇改善に取り組んでまいります。 また、公立保育園の臨時雇用の保育士に対しては、任用制度の改善を図り、処遇改善を行っていく予定です。

番号	意見要旨	市の考え方
3	共働きが増え病児保育の充実が期待されているが、思ったほど機能していない。	御指摘のとおり、病児保育については市内2か所で設置しておりますが、現在1か所が休止中です。子育て世帯の負担軽減のためにも2か所での運用をいち早く再開できるよう努めてまいります。 また、利用について周知に努め、より多くの子育て世帯が利用できるよう取り組んでまいります。
4	子どもが病気の時などに親が休暇を取れる体制について企業にもっと働きかけていく必要がある。	企業の休暇制度の充実については、国や県と協力し制度の周知を行い、また、子育てに取り組む市内企業への表彰制度を市で行うなど取組を検討してまいります。 また、どうしても両親の休暇が取れない場合には病児保育等の制度の利用について周知を引き続き行い、子育ての負担軽減について取り組んでまいります。
5	現在、県が行っている子育て支援員研修で行っているファミリー・サポート・センターの研修は、サポート会員になるための内容であるが、アドバイザーの質の向上に特化した研修について開催を希望する。	ファミリー・サポート・センターの利用会員とサポート会員を繋ぐ役割であるアドバイザーへの研修については、県が実施主体となる「アドバイザー研修事業」がありますが、本県では実施されておりませんので、実施を要望してまいります。
6	虐待を減らすために、諸外国では効果的で経済的な取組として、問題が悪化する前の予防的な親への支援に力を入れている。 専門的な知識と経験を持つスタッフが、特に低所得家庭・初産・多子等の家庭を訪問し、半年から1年という長い時間をかけて、具体的に育児について伝えたり親子に寄り添ったりしていくプログラムが欲しい。	現在、虐待防止への取組として2か月から3か月の乳児がいるすべての家庭を対象に「乳児家庭全戸訪問事業」を行っております。また、子育てに負担感を抱く家庭が見つかった際には、いち早く「養育支援訪問事業」で個別の訪問を行うなど予防に努めております。 また、長期の支援については、先進事例の検証等、効果的かつ効率的な取組について検討してまいります。

番号	意見要旨	市の考え方
7	<p>妊産婦の死因のトップは自殺であり、「妊娠・出産・育児の切れ目ない支援」のためには出産後の親の支援を強化することが必要と感じる。特に、多胎児世帯の子育ては負担が非常に大きい。多胎児世帯の実態について把握し、次に掲げるような具体的取組など、多胎児家庭や多子家庭等の子育ての負担の大きい家庭への支援を充実させる必要がある。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事支援 ・子育て応援券の充実 ・ファミリーサポートセンター利用補助 ・保育サービスにおける保育の要件化 ・多胎家庭向け育児教室や父母の交流 ・ふたご手帳配布 ・定期的な訪問支援等 	<p>多胎児の子育ての負担感については、本市でも問題意識を持って早期発見に取り組んでおり、「乳児家庭全戸訪問事業」や「養育支援訪問事業」で個別の訪問を行うなど予防に努めております。</p> <p>今後も、効果的かつ効率的な取組について検討してまいります。</p>
8	<p>核家族が増え、赤ちゃんに触れ合うような経験が少なくなっているが、小さいころから子育てに関わることで、将来の子育てへの不安や抵抗が無くなる。</p> <p>マイチャレンジだけではなく、保育所、子育てサロン、保健センター等が連携し、全ての中高校生が乳幼児と触れあう場所を提供し、定期的に赤ちゃんに触れあう体験を行うことが望ましい。</p>	<p>次代の親を育てるという観点から幼少期からの乳幼児とのふれあいは重要と認識しております。</p> <p>ただし、乳幼児の保育は、保育士による管理監督の下、安全性を確保した上で行われるものであり、保護者への理解を得ることも必要なことから、安全性を確保しつつ定期的に行える体制の構築について今後検討してまいります。</p>
9	<p>学校の長期休みに、地域や外部講師の力を借りて、普段は体験できないような生きる力をじっくり育む長期プログラム（収穫体験、炊事、屋外体験、自然観察会などフィールドワーク）を開催してはどうか。その際はシティプロモーション課とも協力して、都会の子どもたちにも参加してもらえば自然豊かな那須塩原市の魅力を感じてもらえるのではないか。</p>	<p>御提言いただきました取組につきましては、今後、既存の事務事業の更なる充実や新たな事務事業の検討を進める中で貴重な意見として参考にさせていただきます。</p>

番号	意見要旨	市の考え方
10	不登校や引きこもりの若者が増える今、誰もが生きる意味があり、人生にはたくさんの選択肢があることを伝え、示すため、技術・家庭科や人生を豊かにする芸術教科を充実させることが何より大切である。	御提言いただきました取組につきましては、今後、既存の事務事業の更なる充実や新たな事務事業の検討を進める中で貴重な意見として参考にさせていただきます。
11	学校農園を充実させ、農作業、収穫、調理をして食べるという一連の体験をさせることは大切である。	食物の生育過程を学び、実際に口にするこは、食育の観点から重要であると考えております。
12	朝食欠食・孤食解消のために、朝食（おにぎりだけでもいい）を学校等で無料提供することが出来ないだろうか。	朝食欠食や孤食への対策として、無償の朝食を提供することは全国でも始まったばかりであり、実施のためには地域のボランティアやNPO、企業との連携や、学校との協議、財政的な負担も必要となる場合もあるため、先進市町村の取組について情報収集してまいります。
13	子育て世帯の経済的負担を減らすため、幼保学校の給食は全て無料にする。	<p>学校給食に係る経費につきましては、学校給食法の規定により、市は学校給食に必要な施設・設備の整備に要する費用や人件費を負担し、受益者である児童生徒の保護者の皆様には、食材料費を負担していただいているところです。</p> <p>なお、本年度から保護者の給食費の負担増を抑えたうえで給食の充実を図るため給食費の一部を公費で負担しております。</p> <p>また、経済的な理由により給食費の納入が困難な場合には、就学支援制度にて支援を行っております。</p> <p>保育園等の給食につきましては、在宅で子育てする場合にも生じる費用であることなどを踏まえ、保護者にご負担いただくことが原則と考えております。</p> <p>なお、年収360万円未満相当の世帯及び第3子以降の子どもにつきましては、副食費の免除制度などにより保護者の経済的負担軽減を図っております。</p>

番号	意見要旨	市の考え方
14	子育て世帯への経済的支援として学校等の必要な教材等は全て備品とし、制服等は学校ごとにリユースすることで無駄をなくし、ごみも減らすことができると考える。	御提言いただきました取組につきましては、今後、既存の事務事業の更なる充実や新たな事務事業の検討を進める中で貴重な意見として参考にさせていただきます。
15	子育てに関する業務は子ども未来部にまとめることはできないのか。	市役所の組織機構は、多岐に亘る業務を効率的かつ効果的に行えるよう組織しており、また単一の部局でカバーできないところは常に横の連携を行い、施策を展開しております。 今後も他部局との連携を強化し、効果的かつ効率的に子育て施策を推進してまいります。
16	子育て情報をホームページで見やすく充実させる。	子育て情報につきましては、インターネットの普及により年代別での受取方法に違いが出るなどしているため、今後、ホームページの改善も含めて、総合的な子育ての情報発信方法について検討していく予定です。